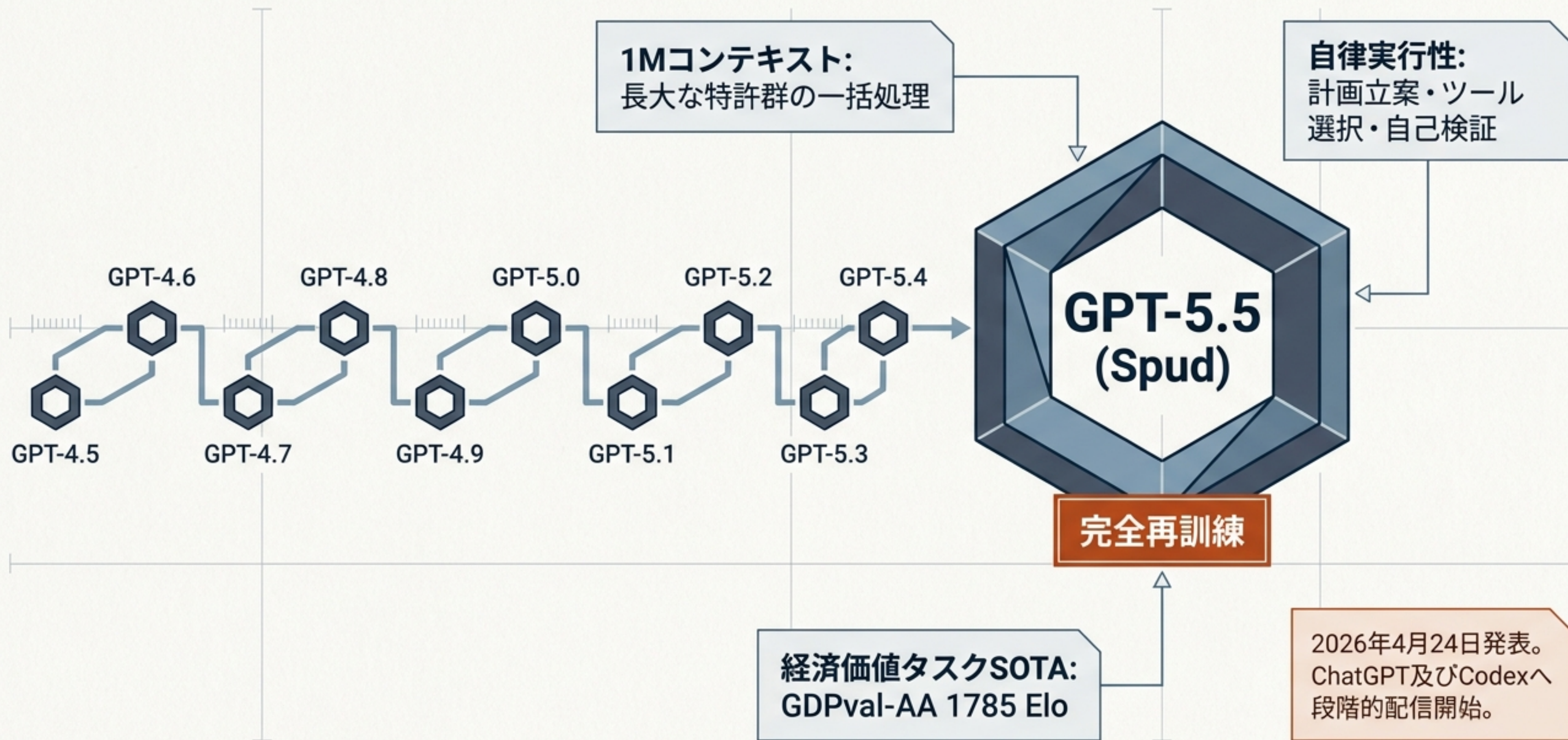


次世代知財のブループリント： GPT-5.5 実務適用と 戦略シフト




汎用基盤モデルの進化がもたらす
知財エコシステムの再定義と、
弁理士・知財部の価値転換



単なるチャットボットから「自律型知的エージェント」への不可逆な進化

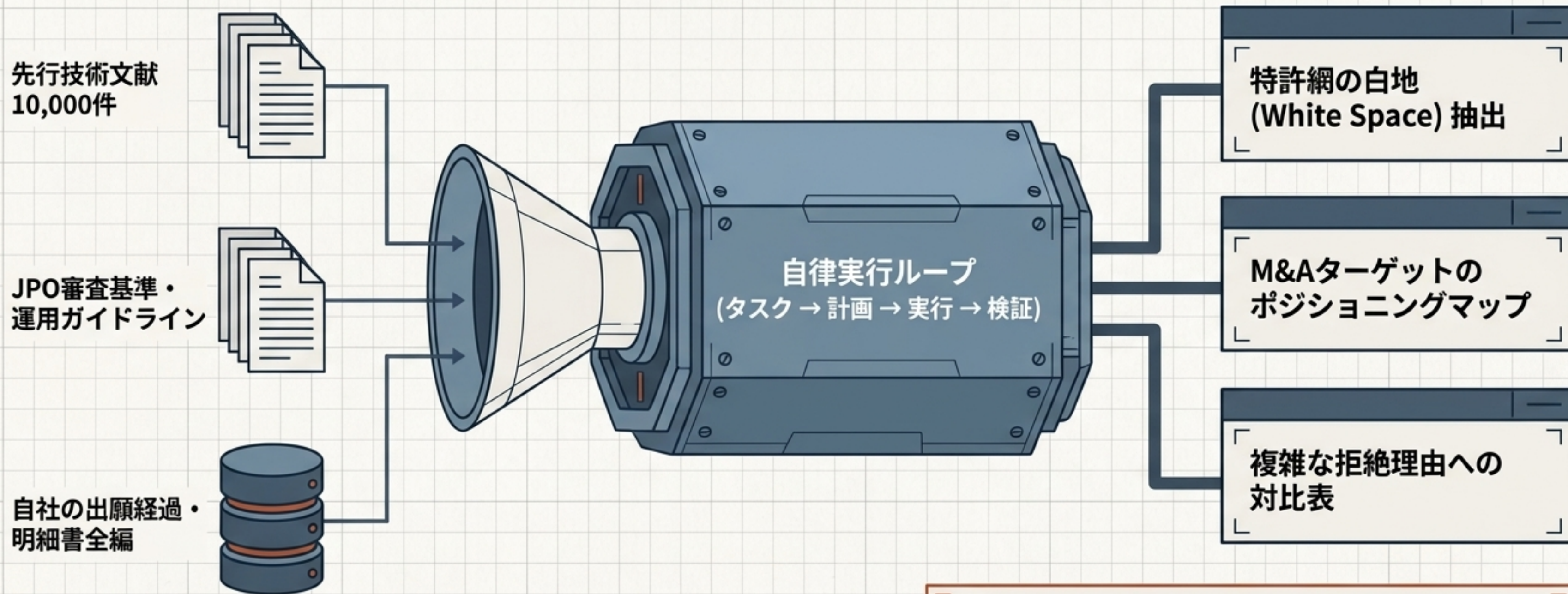


フロンティアモデルの現在地：GPT-5.5 対 競合モデル

	GPT-5.5 (OpenAI)	Claude Opus 4.7 (Anthropic)	Gemini 3.1 Pro (Google)
総合知能 (AA Index)	60 (Top) 	57 	57 
強み	<ul style="list-style-type: none">エージェント実行、知識労働の自動化	純粹推論 (HLE首位)、高解像度ビジョン	ネイティブマルチモーダル、最長コンテキスト
弱点	コスト増 (出力 \$30/1M)、多言語QA (83.2%)	短時間タスクの自律完了率	経済価値タスクでの劣後

GPT-5.5は「エージェント実行と知識労働」に選択的特化した実務特化型モデル

1Mコンテキストの実務的意味：全データ同時参照の衝撃



⚠ 入力 \$5.00 / 出力 \$30.00 (1Mトークン)。
エージェントループによる出力爆発に注意。

ツール選択のパラダイム：Direct API vs. 知財特化型SaaS

Direct API が有利



IPランドスケープ大規模分析：
1Mコンテキストをフル活用した
独自分析



発明提案書のブラッシュアップ：
汎用性と速度重視

知財特化ツール が有利



明細書ドラフティング：
Wordアドイン連携
(Solve Intelligence等)



先行技術調査：
独自分類器・DB連携
(Patentfield AIR等)



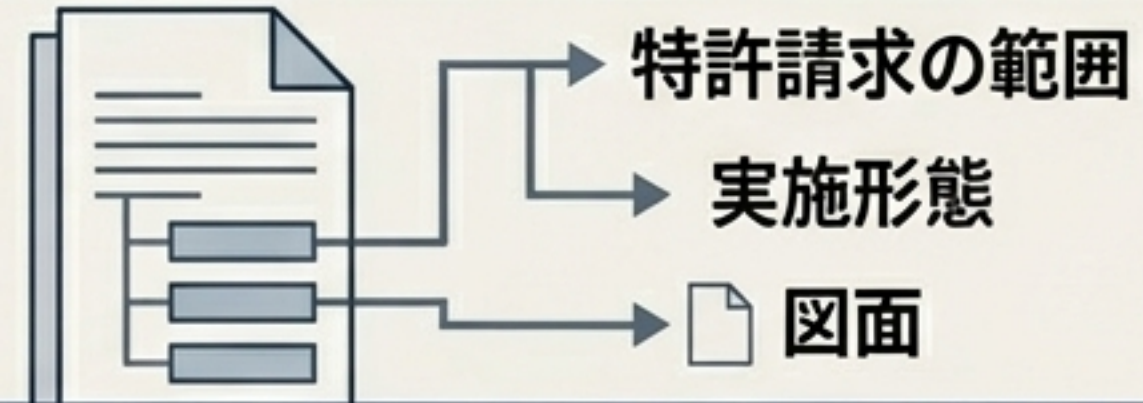
極秘案件の処理：
オンプレミス/ローカルLLMによる
機密保持

自社独自の分析はAPIで構築し、定型業務は特化ツールを調達するデュアル戦略が必須

業務革命1：特許明細書作成と拒絶理由通知対応

Phase 1: 構造化文書の一貫生成

Terminal-Bench 2.0 (82.7%)。請求項の多段構造、実施形態を破綻なく生成。



Phase 2: JPO審査基準への準拠

「進歩性」判断をプロンプト化。
主・副引用と出願経過を同時参照し対比。



Phase 3: 戦略的判断（人間の領域）

障害要因の法的構成、請求項の切り方の最終決定は弁理士が担う。



非英語の特許起草はClaude Opus 4.7との併用を推奨。

業務革命2：自律型IPランドスケープ分析

Input:
対象業界特許
約10,000件

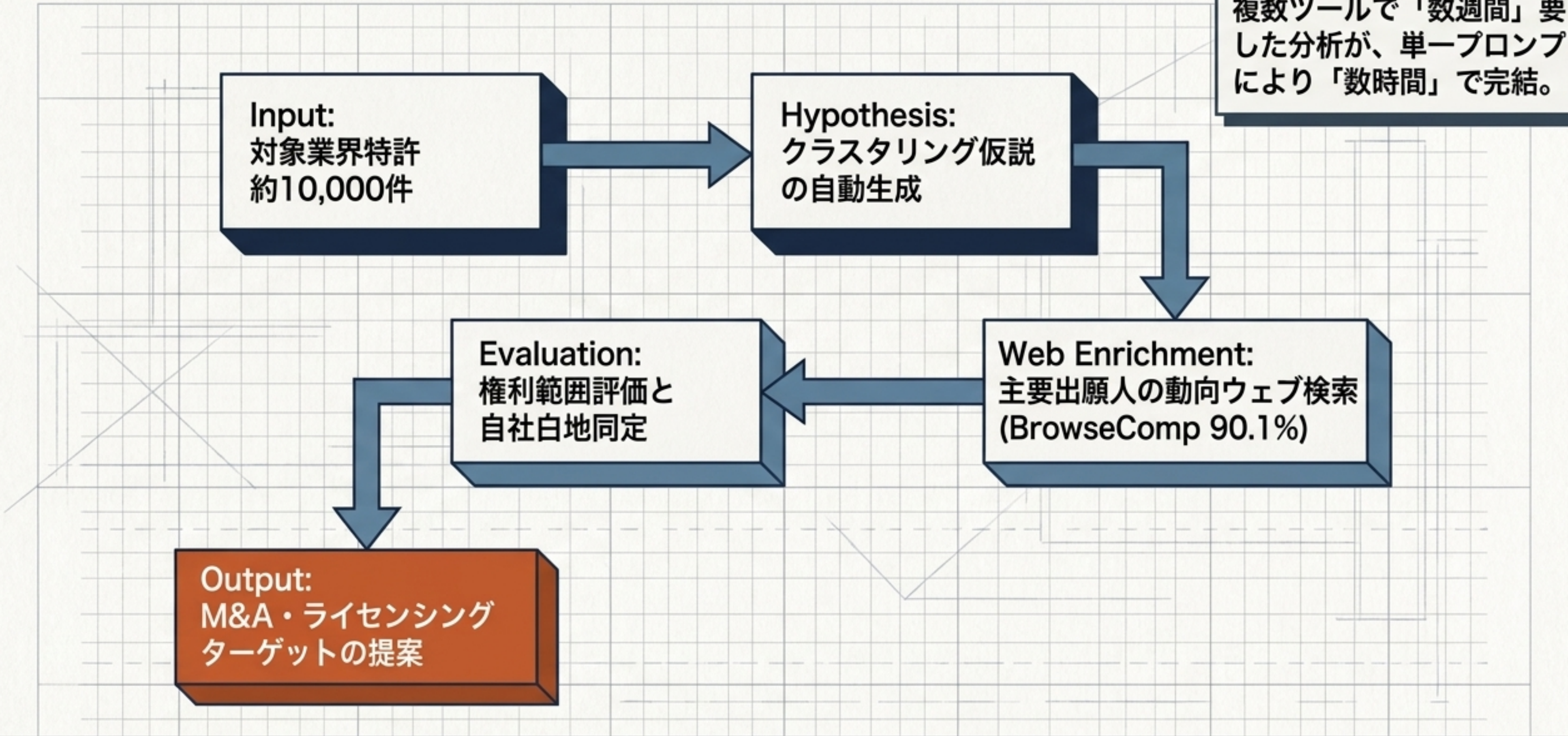
Hypothesis:
クラスタリング仮説
の自動生成

複数ツールで「数週間」要
した分析が、単一プロンプト
により「数時間」で完結。

Web Enrichment:
主要出願人の動向ウェブ検索
(BrowseComp 90.1%)

Evaluation:
権利範囲評価と
自社白地同定

Output:
M&A・ライセンスング
ターゲットの提案



業務革命3：商標・意匠と多言語リスクの管理

商標 (Trademarks)

ロゴ類否判断やウィーン分類特定は可能。ただし多言語訳性能 (83.2%) に留まり多国ウォッチにはリスクあり。



意匠 (Designs)

2026年意匠法改正 (仮想空間デザイン保護) に向けたクロス検索エージェント構築に寄与。



契約実務 (Contracts)

リーガルAI二強 (Harvey, Legora) がGPT-5.5を取り込み、契約書のクロスレビュー品質が飛躍。



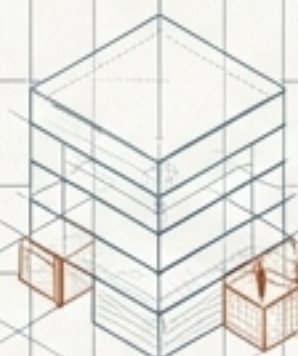
コンプライアンスの境界線：弁理士法第75条とAI利用



グローバル法規制と知財・無形資産ガバナンス

2025年9月

日本「AI推進法」
全面施行



2026年2月

「AI事業者ガイドライン
v1.2」案公表



2026年8月

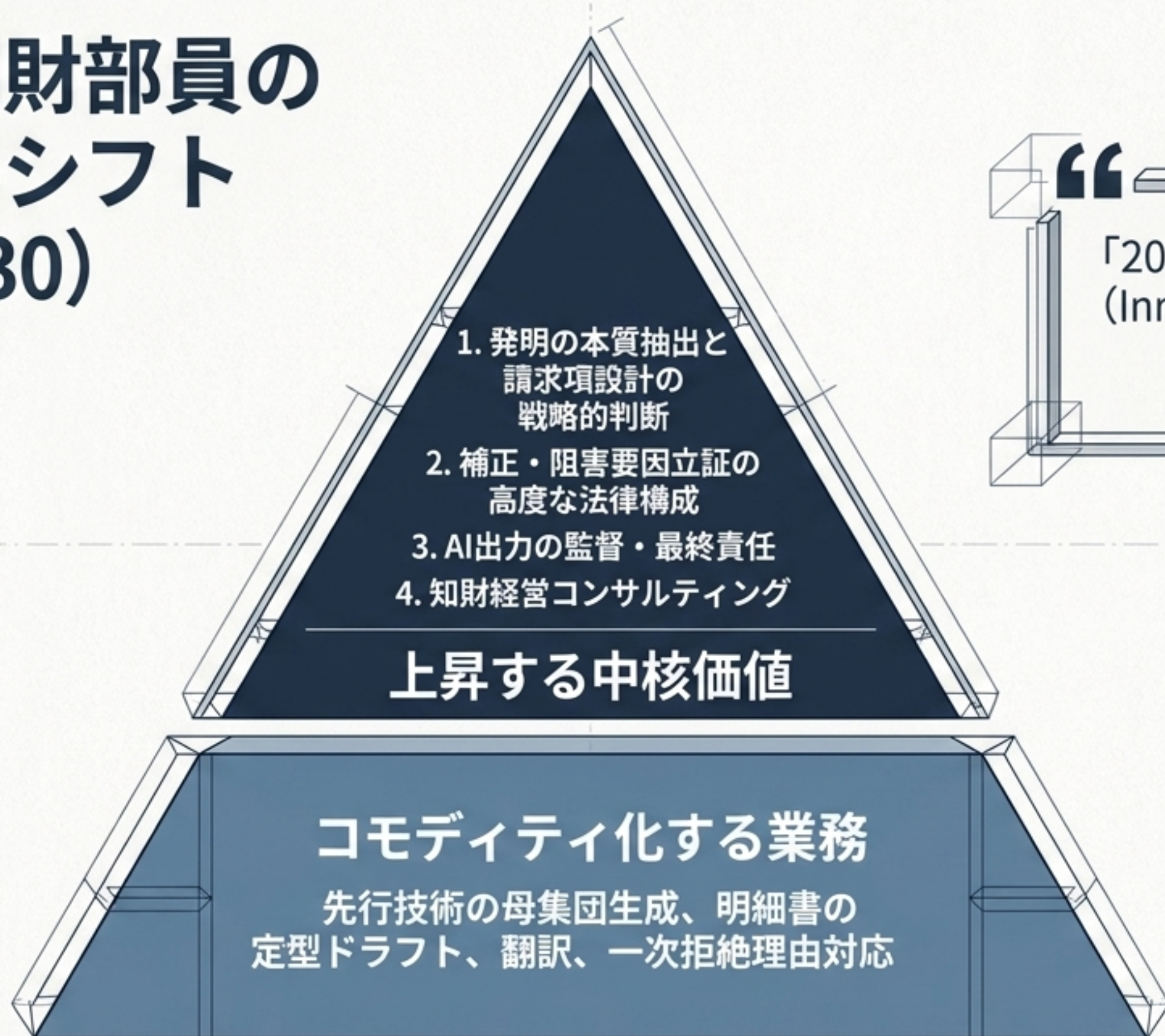
欧州「EU AI Act」
大部分完全適用

ガバナンスの要請

- コーポレートガバナンス・コード改訂に伴う取締役会のAI・知財投資監督
- 有価証券報告書等における「AI関与開示ポリシー」の策定が急務

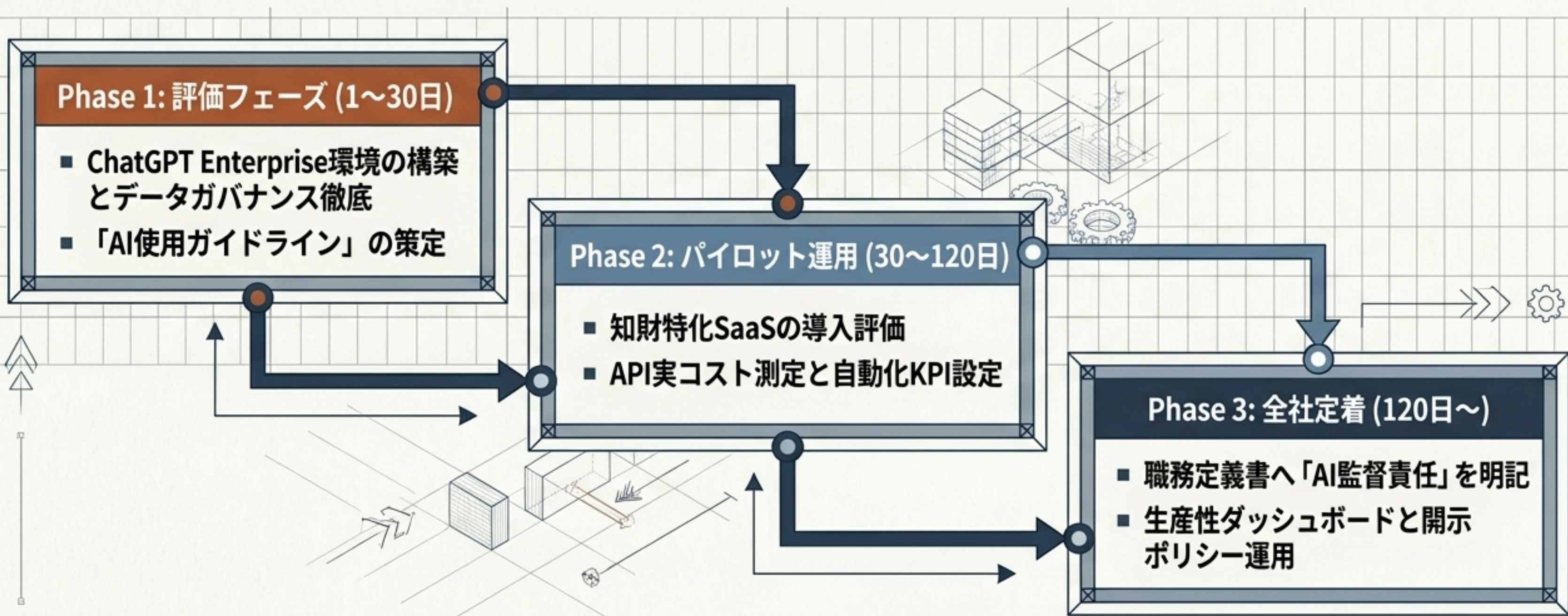


弁理士・知財部員の中核価値のシフト (2026-2030)



“ 「2026年は発明
(Innovator) のAI年」
— Sam Altman ”

実装へのロードマップ：3段階の導入アプローチ



GPT-5.5は「待つ」技術ではない。直ちにPhase 1を起動せよ。